

(様式第2号)

議会報告会（意見交換会）実施報告書

令和8年8月7日

都城市議会議長 様

広報広聴委員長 坂元唱子

議会報告会（意見交換会）実施要領の規定（11—イ）により、次のとおり報告します。

開催日時	令和8年7月11日（土）10時00分～12時00分					
開催場所	ウエルネス交流プラザ1階 茶霧茶霧ギャラリー					
出席議員	別府英樹、羽田野徳寿、中村千佐江、岩元弘樹、徳留八郎、神脇清照、畑中ゆう子、郡山徳博、井川真、綿屋善明、田下勝利、黒木優一、江内谷満義、小玉忠弘、森りえ、東裕一、中元友樹、岸川たかのり、赤塚隆志、坂元唱子、成合まるみか、杉村ともえ、川内賢幸、長友潤治、音堅良一、森重辰海、たかだみか、黒木善寿、川崎龍希					
役割分担	班長	坂元唱子	副班長 司会者	東裕一	記録者	川崎龍希
参加人数	市民40名、議員29名					
意見交換会の種類	—					
団体名	—					
テーマ	総務委員会：日本一の婚活 文教厚生委員会：子どもの居場所と子ども会 建設委員会：公園のあり方 産業経済委員会：理想の働き方					
意見交換の概要 （主な意見・質問・要望等）	4 常任委員会がそれぞれテーマを設定し、委員会ごとに分かれて意見交換を行った。 【総務委員会】 ○ 婚活事業の登録年齢が39歳までとなっていることについて、40～50歳代まで対象を広げてほしいとの意見があった。年齢幅を広げた取組を試行し、参加状況を検証してはどうかとの提案もあった。 ○ 登録時の費用や「結婚前提」という構えが参加への心理的なハードルになっているため、まずは友人づくりから始められる気軽な出会いの場を求める声があった。 ○ 若い世代からは、奨学金返済など経済的負担が交際・結婚を考える余裕にも影響するとの意見や、結婚後に自由に使えるお金が減ることへの不安が示された。 ○ オンラインでの交流が増え、対面での会話に慣れていない若者もいることから、人と人が直接関わる機会の重要性が指摘された。 ○ 婚活事業の登録者は約900人いる一方、イベント参加者は全体の約					

1.6%との説明があり、職業別イベントや共同作業型の企画など、参加への一歩を後押しする工夫が必要との意見があった。

○ 結婚して家庭を築くなら住み慣れた故郷がよいとの声もあり、都城市にも出会いの場づくりへの協力を求める意見があった。

○ 「幸せだと感じること」については、家族や友人との時間、子どもの成長、食事、人から感謝されること、趣味、都城市に活気が出ていることなどが挙げられた。

【文教厚生委員会】

○ 子どもの居場所について、小中高校生が年代に応じて遊び、運動し、集まれる場所を増やしてほしいとの意見があった。スケートボードやボール遊びができる場所、雨天時にも過ごせる児童館のような施設を各地域に求める声があった。

○ 児童館は友人と会える大切な居場所となっている一方、飲食ができないため昼食時に一度帰宅しなければならないことが不便との意見があり、飲食禁止の理由確認や運用改善を求める声があった。

○ 居場所は単なる遊び場ではなく、「自分らしくいられる」「食べることができる」「中高生が大人の目を気にし過ぎず過ごせる」など、多様な機能が必要との意見があった。

○ 子ども会については、役員の担い手不足が大きな課題であり、役員を減らしてイベントごとに自由参加する「サポーター」を募るなど、負担軽減の工夫が紹介された。

○ ジュニアリーダー活動では、中学生の参加者が増え、友人関係の広がりや自信・積極性の向上につながっているとの声があり、子ども会を子どもが活躍できる場として残してほしいとの意見があった。

○ 子ども会や地域の子育て活動への補助、まちづくり協議会との連携、子どもの居場所に関する窓口の一本化、公民館ぐるみの子育て支援などを求める意見があった。

○ 医療的ケア児や18歳以上の生活介助を必要とする人の居場所、福祉避難所の電源確保など、障がいのある子ども・若者の地域での居場所についても意見があった。

【建設委員会】

○ 公園トイレについて、暗い・汚れている・悪臭がある・和式が多い・トイレトペーパーがないなど、安心して利用しにくいとの意見があった。特に姫城市民グランドや神柱公園など、老朽化した施設の改善を求める声があった。

○ 市内には子どもが気軽に遊べる小規模公園が少なく、大型公園も地域的な偏りがあるとの指摘があった。遊具撤去などにより、子どもの遊び場としての魅力が低下しているとの意見もあった。

○ ボール遊びなどを巡る近隣住民との摩擦、樹木の落葉や道路への張り出しによる清掃負担・転倒やスリップの危険など、公園利用ルールと周辺環境への配慮も課題として挙げられた。

○ 改善策として、明るく清潔感のあるトイレ、人感センサー照明、洋式・多目的・子ども用設備、防犯カメラ等の防犯対策を進める提案があった。

○ 維持管理については、地域企業との連携、有償ボランティア、市民

	ペイ等のポイント付与、SNS を活用した不具合報告や作業参加募集など、市民・企業を巻き込む仕組みが提案された。 ○ 猛暑対策として屋根付きミスト設備や木陰の確保、歩いて行ける範囲で快適に過ごせる公園づくりを求める意見があった。 【産業経済委員会】 ○ 大学生・高校生が地元で働く条件として、都会への憧れがある一方、地方の良さを知る機会が必要との意見があった。 ○ 就職先を選ぶ上では、給与だけでなく人間関係や福利厚生、会社の理念、働き手の思いとのマッチング、コミュニケーションの取りやすさなどが重要との意見が出された。 ○ 職場では横のつながりだけでなく、上司・先輩などとの「斜めの関係」や、相談しやすく信頼できる人間関係が必要との意見があった。 ○ 働きたい、やりたいという思いを大切に、現場の理念を基に理想の働き方を考えること、お金で見えない部分にも目を向けることが必要との意見があった。 ○ 新規就農については、親が農業をしても継がない・継がせないケースや、農業高校卒業者でも就農率が低いとの意見があり、幼少期から土に触れるなどの体験が重要とされた。 ○ 農業を含む地元就職を増やすには、補助金だけでは解決できず、教育・地域コミュニティ・企業等が連携した「オール都城」での取組や、世代を超えた交流が必要との意見があった。 ○ AI ビジネスなど新しい分野への関心も示され、多様な仕事や働き方に触れる機会づくりの必要性が挙げられた。
そ の 他 (今後の課題・感想等)	【総務委員会】 婚活を単なる「結婚相手探し」と捉えるのではなく、友人づくりや人とのつながりづくりから始められる仕組み、経済面を含む若者の生活環境への支援、対面交流の機会づくりなど、参加しやすい環境整備を検討する必要がある。 【文教厚生委員会】 地域活性化の中心に子どもを置き、既存施設の活用、年代に応じた居場所づくり、子ども会の担い手負担軽減、行政・公民館・まちづくり協議会・地域団体の連携を進める必要がある。医療的ケア児等を含め、誰もが地域で安心して過ごせる居場所の視点も重要である。 【建設委員会】 利用頻度の高い公園から遊具・トイレを計画的に改修するとともに、防犯対策、持続可能な維持管理体制、地域バランスを考慮した配置、利用ルールの明示などを総合的に検討する必要がある。 【産業経済委員会】 若者の地元定着には、待遇面だけでなく、職場の人間関係、理念への共感、成長実感、地域とのつながりが重要である。農業を含め、幼少期からの体験、キャリア教育、企業・地域との交流を継続的につなぐ仕組みが課題である。